

華南
通信

「深中通道（深セン-中山ブリッジ）」の開通

広東省深センと中山を橋と海中トンネルで結ぶ「深中通道」（深セン-中山ブリッジ）が6月30日に正式に開通したことが発表されました。「深中通道」運営当局のデータによると、開通後1時間の通行車両数は、延べ7000台以上に達しました。



「深中通道」は、粵港澳大湾区（広州、仏山、肇慶、深セン、東莞、惠州、珠海、中山、江門の9市と香港、澳門<マカオ> 両特別行政区によって構成される都市クラスター）の核心となる交通ターミナルプロジェクトで、全長は約24kmに及びます。北にある虎門大橋とは約30km、南にある港珠澳大橋（香港・珠海・マカオ大橋）とは約31km離れており、設計時速は100km、片側4車線で、高速道路の技術基準に基づき建設されています。

深センと中山間の車での所要時間が2時間から約30分に短縮することになったことにより、両地が「30分経済・生活圈」に組み込まれるようになりました。

広東省を流れる川・珠江周辺の交通ネットワーク構築において、重要な意味を持つ「深中通道」が開通したことは、車での所要時間が短縮だけでなく、粵港澳大湾区の「相互接続」が重要な一歩を踏み出したことを意味しており、さらに多くの発展の活力が引き出されることが期待されます。

上記内容についてのお問合せは、広州マイツまでご連絡ください。



WeChat アカウントはこちら